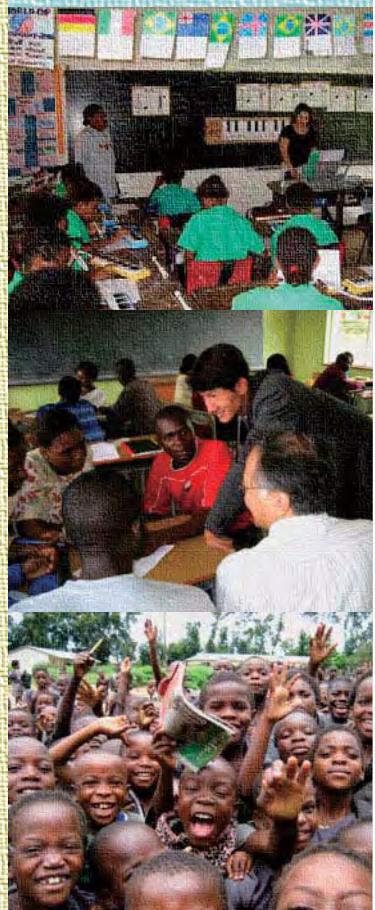


途上国で
がんばる先生を
応援します。



平成19年度国際協力イニシアティブ 教育協力拠点形成事業

—青年海外協力隊派遣現職教員の支援—

成果物のご案内

「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業
－青年海外協力隊派遣現職教員の支援－
成果物のご案内の刊行によせて

教育協力拠点形成事業では、我が国の国際教育協力の質向上を目的に、大学等の教員や研究関係者が有する我が国の知見を整理・蓄積するとともに、援助機関やNGO等の国際協力関係者が現地で活動する際に役立つ活動モデルの作成や参考教材の作成などを行っています。

本事業において、青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」により途上国に派遣され国際協力に従事する教員の活動を支援しており、このたびその取組の成果をとりまとめて刊行しました。

青年海外協力隊員として派遣される教員の方々が途上国で活動される際や、帰国後に途上国での経験を活かして活動される際などに、本書が幅広く活用されることを期待しております。

平成20年1月5日

文部科学省大臣官房国際課

国際協力政策室

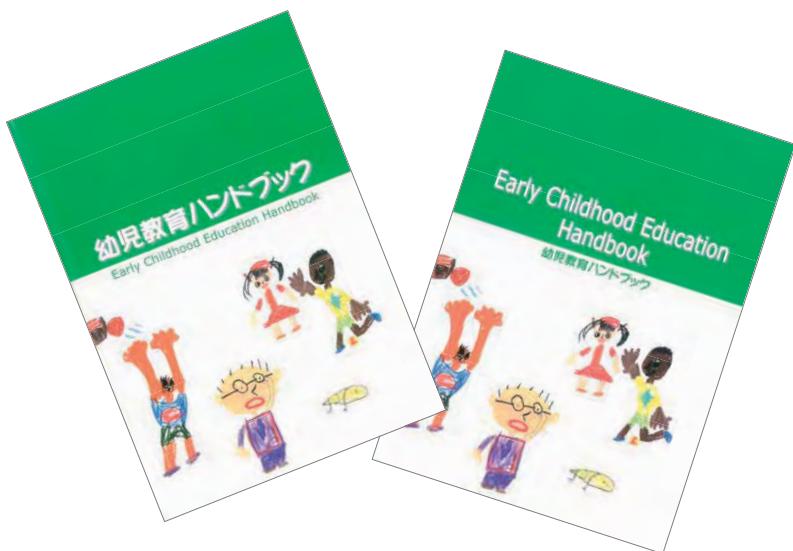
目 次

I 成果物の概要	3
1. 幼児教育ハンドブック	4
2. 環境教育実践事例データベース	10
3. 特別支援教育ブログ	16
4. 家庭科ハンドブック	20
5. 帰国隊員教育実践事例集	24
6. ハンズオン素材を活用した活動事例集	28
7. 学校保健改善マニュアル	32
8. 持続的農業と有機肥料	36
II 事業関連資料	43
1. 日本の「知」を活用した国際協力	44
2. 「青年海外協力隊派遣現職教員のサポート」ホームページ	45
3. 「国際協力イニシアティブ」ライプラリ	46

I 成果物の概要

1. 幼児教育ハンドブック

- Early Childhood Education Handbook



日本の幼児教育の理論と実践を一冊で概観できるようにし、海外で幼児教育に関する活動を行う際の参考資料として活用していただくためにまとめました。



分 野

幼児教育、就学前教育

言 語

日本語、英語、ベトナム語（平成19年度中に仏語）（アラビア語にも翻訳中）

要 旨

本書では日本の幼児教育を解説するとともに、幼児教育の遂行に必要な情報を具体的な実践例を通して提示しています。途上国で幼児教育を支援する方のために、幼児教育をこれから普及させていくうとする国において活動する際の留意点についても述べています。

活 用 方 法

幼児教育隊員だけでなく、コミュニティの構成員である幼児に接する機会の多い青少年活動、村落開発普及の他、小学校教諭等の職種の方にも活用いただくことを期待しています。

派遣前の隊員は事前の情報収集に、派遣中の隊員は、現地の学校での授業、セミナー、ワークショップ等での日本の幼児教育についての説明や、現地で応用可能な事例の提案などに活用できます。

活用事例

○隊員による活用事例

幼児教育ハンドブックは、隊員によって次のような活用のされ方をしています。①現地の教員研修での教科書としてや参考資料、②現地の行政関係者等に日本の幼児教育を紹介するときの一例、③途上国現地に派遣される前の事前(自己)研修のテキストあるいは参考資料、④自分自身の活動を振り返ったり、今後のステップアップのための参考資料、⑤行政関係者、幼児教育の指導者層(教員養成校の教員など)、教員養成校の学生、幼稚園教諭等に、幼児教育を理解してもらうための資料。

○研修事業での活用事例

セネガル、ニジェール、マリ、ブルキナファソ、カメルーン5カ国(フランス語圏)の学前教育行政官、幼児教育視学官、教員養成校教師、幼稚園園長等を対象として日本で開催された JICA 地域別研修中西部アフリカ幼児教育でハンドブックが活用されました。(平成 18 年 9 月 19 日～10 月 12 日、平成 19 年 9 月 13 日～10 月 3 日、於東京)



入 手 先

<http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd/handbook.html>

<http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd/handbook-e.html>

作 成 年 度

平成 16 年度

作 者

お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター(代表: 浜野 隆)

連 絡 先

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

TEL: 03-5978-5248 FAX: 03-5978-5250

E-mail: hamano.takashi@ocha.ac.jp

<http://www.ocha.ac.jp/ktjkkc/eccd/index.html>

作者からのメッセージ

国際協力は、相互理解に基づくことが基本です。私たちが途上国に對して何か協力をしようとするときは、こちらが相手のことを理解すると同時に、相手にも日本のことによくわかってもらうことが大切です。このハンドブックは、日本の幼児教育について、特に実践面での知見を集約しています。隊員の方が途上国で活動を展開する際に、相手に日本のこと理解してもらうひとつの材料となることでしょう。

以下、隊員の方々から実際に寄せられた声を紹介しておきます。

◇日本の情操教育について説明するのはなかなか難しく、……本の中によてもたくさんの写真が載せられてあったのには助かりました。

◇いろいろな保育の How to 本だけでなく、その教育的意義や子どもたちの疑問に思う心、不思議がる心、失敗を機に新たな発見をしていく過程まで丁寧に書かれていて感動しました。

◇現地の先生たちに、どうしてこのような活動が大切なのかと問われたときに、上手く説明できなかつたことがハンドブックの中からわかるように説明できると思う。

◇教科書としてそのまま使うのは難しいが、その国の幼児教育の実態に合わせて部分的に活用することは可能である。

◇自分がやりたい活動を言葉で十分に伝えられない時など便利だと思う。ただ日本の園の紹介というだけでは、やり方によっては「日本はお金があるからこんなことができるのだ」という印象だけを与えかねないので注意が必要。



2. 環境教育実践事例データベース

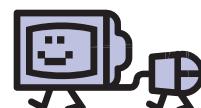
<http://dbee.miyakyo-u.ac.jp/>

The screenshot shows the DBEE database interface with various search and browse functions:

- 環境教育実践事例データベース** (Database of Environmental Education Practices)
- Search fields: 検索教育実践事例 (Search for environmental education practices), 検索キーワード (Search keyword), 検索用語 (Search term).
- Buttons: リスト表示 (List view), フォーム表示 (Form view), オンライン登録 (Online registration), ダウンロード登録 (Download registration), データベース検索 (Database search), データベース登録 (Database registration).
- Links: サークル海外協力隊活動データベース (Circular overseas cooperation activity database), データ利用が可能な活動 (Activities where data utilization is possible).

The CD-ROM cover is labeled "環境教育実践事例データベース" (Database of Environmental Education Practices) and "DBEE". It includes the URL <http://dbee.miyakyo-u.ac.jp/> and credits to JSPS KAKENHI and the Center for the Publication of Sustainability Research, Miyazaki University.

環境教育に関する方を支援する目的で作成した環境教育総合支援データベースです。日本の実践事例等を調べることができます。



分 野

環境教育

言 語

日本語、英語(一部)

要 旨

環境教育実践事例データベースには日本における環境教育の取り組事例、その実践法などを広く収集しており、これらパートを組み合わせることにより、簡単な環境教育指導案などを作成することができます。Q and Aコーナーでは、環境教育実践に関わる様々な質問に答えその内容を公開します。

この他、隊員専用のデータベースでは、過去の隊員の報告書を閲覧したり、隊員としての事前準備について質問することができます。

活 用 方 法

環境問題はどの国でも避けられない深刻な問題となっています。環境教育実践事例データベースは環境教育隊員だけでなく、青少年活動、村落開発普及、小学校教諭等の他、保健衛生部門や農林水産部門の職種の方にも活用いただくことを期待しています。

派遣前の隊員は事前の情報収集に、派遣中の隊員は、現地の活動において日本の事例についての説明をしたり、現地との比較を行う際等に活用できます。

活用事例

○派遣における自学研修支援(指導案作成演習)

海外での環境教育支援において比較的の要度の高い「ゴミ問題」、「環境美化」、「リサイクル」などの取組のための指導案モデルをデータベースを用いて作成する方法などを指導しています。環境教育隊員以外に小学校教諭、保健衛生などに関わる隊員からの要望や問い合わせに応じて、助言指導および情報提供を進めています。

◎ゴミ学部の指導案として

- Data No.190(ゴミからわかる地球健康、指導計画、指導教科書、教材の働きかけ、指導上の留意点等が記載)
- Data No.233(エコスクール、対策と実体験、問題解決、新エネルギー学習の具体的な内容等が記載)
- Data No.533(社会科指導案、健康なく冬のため、指導計画と評議会書、指導程度が記載)

Data No.190 Data No.233 Data No.338

自然環境保全とゴミ
宇宙船の実験(日本実験室)
暮らしとゴミ

いくつかの指導案例を紹介にして、ゴミ学部についての具体的な取組の方法を学ぶことができる。これらの指導案と実践例とともに、独自の指導手順書(指導者の感想)を作り出すことができた。

データベースを活用した指導案モデルの作成

○派遣中隊員への学習素材の提供

平成 19 年 11 月にカンボジアで派遣中隊員（小学校教諭、体育など）に対して、データベースの活用に関するワークショップを行いました。隊員からの声を反映し、隊員の教育活動に役立つ各種素材（手洗いに関する教材資料、動画、演示用パワーポイント図など）をデータベース化して提供しています。



酸性雨に関する提示用素材



隊員に対するデータベース操作

説明と情報交換

JICA のカンボジア事務所でのワークショップ (H19.11.30)

入 手 先

<http://dbee.miyakyo-u.ac.jp/>

http://dbee.miyakyo-u.ac.jp/jocv_support/ (隊員専用、要パスワード)

作 成 年 度

平成 18,19 年度

作 者

宮城教育大学附属環境教育実践研究センター(代表者:村松 隆)

連 絡 先

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

TEL: 022-214-3539 FAX: 022-214-3539

E-mail: t-mura@staff.miyakyo-u.ac.jp

<http://www.eec.miyakyo-u.ac.jp/>

作者からのメッセージ

環境教育実践事例データベースは、日本における最新の環境教育情報を多数収録しており、教育方法を立案し実践するのに大いに役立ちます。Q and A を活用することにより、隊員の具体的な課題を解決する情報を効率よく入手することもできます。

環境教育は総合的なものです。このデータベースには環境教育隊員以外に多くの職種の隊員にも役立つ素材が含まれており、派遣前隊員の自学研修データベースとして、派遣中隊員の教材作成データベースとして、また、帰国隊員の教育支援データベースとして、是非活用してください。



3. 特別支援教育ブログ

<http://initiative.justblog.jp/blog/>

国際教育協力ニシアティブブログ
筑波大学特別支援教育研究センター SSERC(Special Support Education Research Center)
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/sserc/> ご質問の場合は画面左下「メールを送信」よりご連絡下さい。

2007年11月

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

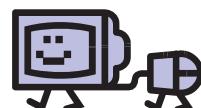
おしらせ

JUSTBLOGの新規登録
(アカウント登録)
アカウント登録用のパスワード
(14文字以上)
info Blog Editor: 異議提出
異議提出用のパスワード
(14文字以上)
info Blog Editor: リンク登録
リンク登録用のパスワード
(14文字以上)
ログイン

無信でブログを始められます

国際教育協力ニシアティブブログ正式公開
本ブログは、筑波大学特別支援教育研究センターが管理しています。海外で障害児にかわる活動をされている方々とのサポートを目的としています。
JICA及びJICAの海外で障害児教育に関する活動に従事されている方、以前活動されて現在も活動されている方々と、国内の障害児教育関連の仕事をされている大学等の専門家及び特別支援学校のバーチャル仲間(障害児教育者、研究者、施設・自由、自閉症)サポートパートナー)が参加するブログです。
これまで、不正な書き込みへの対処やデータの漏洩などの実験を展開していました。この度、JICAを通じて皆様に登録のご案内をし、正式に公開することになりました。
提供講師員の方々、現地の活動や子どもたちのこと、会員の活動について等、速やかに書き込んでください。国内の障害児教育者、サポートパートナーがそれぞれの経験や専門からできる限りの手を使せていただこうと考えています。
ブログ上でデータを共有して交換することも可能です。今後、本センターで作成した障害情報や教育に関する教材集などをアップしていく予定です。
書き込みの方諸さま、以下の方法があります。
1. それぞれの投稿に対してコメントを残す
2. IDとpasswordを使って本文を修改する
書き込みは、本センターが管理します。
公開されない場合は、sserc@human.tsukuba.ac.jp
積極的な参加をお願いいたします。

養護領域及び周辺領域で活躍している隊員の皆様が、ブログ上で、情報交換や資料提供をしたり、専門的助言を得たりすることができます。更には帰国隊員がブログ上で自身の経験を派遣中の隊員に還元していただくことも期待しています。



分 野

特別支援教育

言 語

日本語

要 旨

隊員だけでなく、海外で障害児にかかわる活動をされている方々のサポートを目的として、国内の障害児教育関連の専門家及び筑波大学附属特別支援学校の教師(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、自閉症)であるサポートパートナーが参加するブログです。隊員の質問に対し、国内の帰国隊員やサポートパートナーがそれぞれの経験や専門から可能なアドバイスが提供されます。

活 用 方 法

養護隊員だけでなく、青少年活動、村落開発普及、小学校教諭、ソーシャルワーカー等の職種にも活用いただくことを期待しています。

各国で活躍する隊員からの資料提供の依頼を受けて、ブログ上で適切な資料をダウンロードできるようにしていますので、派遣前・中の隊員が情報収集等をするのに有用です。また、現地活動に関して、質問したり助言を求めたり、授業計画の協議や有用な教材の紹介などをすることもできます。

また、筑波大学特別支援教育研究センターでは、複数の方々が参加できる簡便なインターネットテレビ会議システムを有しています。文書だけではサポートパートナーからの充実したアドバイスが困難な場合には、日程を調整してテレビ会議を開催することも可能です。

帰国後の隊員は、同様に質問することができる一方、現地隊員の活動に対し経験者の立場から助言することもできます。現在活動されている隊員の方々にとって、先輩の隊員が任国で経験してきたことについての情報を得ることは、極めて重要なサポートにつながると思われます。このブログが帰国隊員による派遣中隊員のサポート体制となることも期待しています。

入 手 先

<http://initiative.justblog.jp/blog/>

作 成 年 度

平成 19 年度

作 者

筑波大学特別支援教育研究センター(代表者: 前川 久男)

連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

TEL: 03-3942-6923 FAX: 03-3942-6938

E-mail: sserc@human.tsukuba.ac.jp

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/sserc/>

作者からのメッセージ

ブログは <http://initiative.justblog.jp/blog/> のアドレスからどなたでも閲覧することができます。各書き込みに対するコメントの入力はどなたでもできますが、「書き込み」についてはログインして行う必要があります。ログインするためユーザー登録をする場合には、筑波大学特別支援教育研究センターにお問い合わせいただくと、IDとパスワードをお知らせします。

登録のお申し込みは、seto@human.tsukuba.ac.jp へお願いします。

なお、不正な書き込みなどの管理は、当センターが行います。

4. 家庭科ハンドブック

- Handbook of Home Economics



日本の家庭科教育の経験を生かし、生活に必要な項目をそれぞれ小学校レベルから中学校、高等学校や職業教育に応用できるように段階的にまとめ、海外の教育レベルに応じて取捨選択できるような指導案形式にまとめました。



分 野

家庭科、家政

言 語

日本語、英語

要 旨

家族と家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活と資源・環境の5領域からなり、途上国における中学校レベルを想定した内容を納めました。各領域で、それぞれの項目に係る理念や解説、扱い方を記述した上で、学習のねらい、学習時間、具体的な学習の流れや活動例、解説などを示しています。

活 用 方 法

家政、手工芸、料理、服飾および青少年活動、村落開発普及員などの他、小学校教諭、幼稚教育、保健衛生部門等の職種の方にも活用いただくことを期待しています。

派遣前の隊員は事前の情報収集に、派遣中の隊員は、現地での活動、セミナー、ワークショップ等で日本の家庭科教育についての説明をしたり、現地活動で日本の事例を応用したりする際に活用できます。

活用事例

派遣された隊員がそれぞれの分野で、授業の参考にしています。

また、来日したアフガニスタン女性教員にも現地語に翻訳した一部の内容を使って講義を行いました。



五女子大学コンソーシアム

アフガニスタン研修

(H19.1.16)

入手先

http://momijwu.ac.jp/~kasei/pick_up/handbook.html

作成年度

平成17,8年度

作 者

日本女子大学家政学部（代表者：佐々井 啓）

連絡先

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

TEL& FAX: 03-5981-3485

E-mail: kaseishien@fc.jwu.ac.jp

<http://www.jwu.ac.jp/>

作者からのメッセージ

これまで日本で行われてきた家庭科教育の内容を網羅したもので
す。単に技術を教えるのではなく、その背景にある理論を理解し、そ
の上で活用してください。事例が日本のものであっても基本的な理論
がわかれれば、現地の状況に合わせて応用できるはずです。

また、家庭科は生活に密接に結びついているので、学校教育だけ
でなく、課外活動や地域での成人教育、ワークショップにも応用して
いただけることを願っています。特に食物や栄養に関する内容は、乳
幼児の健全な発育や病気の予防ともかかわってきますので、保健な
ど他の分野の知識を得ながら活用してください。

5. 帰国隊員教育実践事例集



隊員の教育協力経験と帰国後の教育活動実践事例をまとめ、日本での国際理解教育の実践の支援を目的とする事例集です。



分 野

帰国後の活動(国際理解教育(小・中・高)、小学校全般(社会科・算数・理科・音楽・図画工作・家庭科・体育・総合的な学習の時間))

言 語

日本語

要 旨

派遣現職教員の帰国後の教育実践をサポートする実践事例集です。派遣経験をもつ隊員の聞き取り調査の結果と、筑波大学附属小学校の国際教育協力経験教員の経験をもとに、帰国後に国際協力経験を生かすためには、派遣前の段階から、派遣中、派遣後にどのようなことに注意して取り組んでいけばよいかという実践のためのヒントが手に入るハンドブックです。

活 用 方 法

帰国された隊員が学校や地域等で経験を生かして教育活動を企画する際に参考資料として活用してください。

活用事例

派遣現職教員を迎えて行った2回のワークショップでは、これから協力隊に派遣される教員や、応募を考えている教員に、現地での体験がどのようなものか、また帰国後に派遣体験をどのように生かせるのかを具体的に知ってもらうことができました。

今後は帰国後活動の事例をとりまとめウェブ上で公開します。多くの方に活用いただけることを期待しています。

入手先

<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

(平成19年3月公開予定)

作成年度

平成19年度(予定)

作者

筑波大学附属小学校（代表者：田中 統治）

連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

TEL: 03-3946-1391 FAX: 03-3946-5746

E-mail: totanaka@human.tsukuba.ac.jp

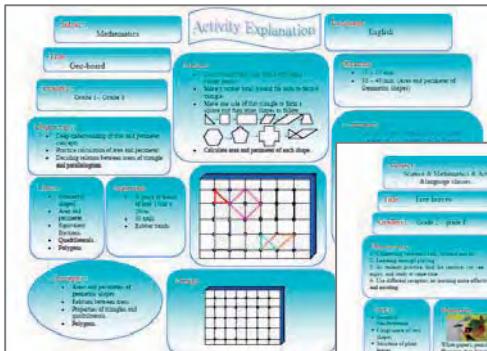
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

作者からのメッセージ

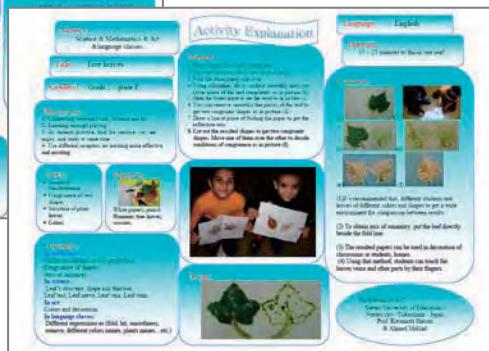
帰国後、派遣先での経験を生かしたくても十分に生かせていない
先生がずいぶんいらっしゃるようです。本実践事例集が、貴重な海外
での教育協力体験を生かすきっかけやヒントになればと思います。

6. ハンズオン素材を活用した活動事例集

*



ハンズオン素材の例



「ジオ・ボード」は、いろいろな形づくりなど図形の学習に広く使えます。板、くぎ、ゴムバンドがあれば、簡単に作ることができます。「木の葉っぱ」は紙にいろいろな葉っぱをはさんで、かなづちでたたくという簡単な活動ですが、葉脈を調べたり、対称な図形を作ったり、また造形の学習に生かしたりして多様な活動が展開できます。事例集では、このような素材をたくさん紹介します。



*仮のタイトルです。

分 野

算数、理科、音楽、美術等

言 語

日本語(一部、英語、スペイン語、フランス語)

要 旨

パズル等の数学的なゲーム、現地の材料を用いた簡単な科学実験などの素材(以下「ハンズオン素材」)を収集し、様々な観点から素材を検討・評価をした上で一覧化しています。

材料は国、地域によって現地で入手可能なものとそうでないものがありますが、現地で入手できる材料によるアレンジや活動方法についても紹介します。

活 用 方 法

主に、小学校教諭、理数科教師等の職種の方に活用いただくことになると 생각ていますが、コミュニティで多様な活動を行う青少年活動、村落開発普及等の職種の方にも活用いただくことを期待しています。

派遣前の隊員は事前の情報収集や現地活動でのプランづくり等に、また、派遣中の隊員は、現地の学校での授業、セミナー、ワークショッピング等で現地の環境に合わせて、一覧から適切なハンズオン素材を選択し、自身で作成してみせたりすることができます。

活用事例

写真で紹介している「ジオ・ボード」は有名な教具、学習具ですが、どこでも入手できる材料で、簡単に自作できるところに意味があります。また「木の葉っぱ」は簡単な活動ですが、いろいろな遊び、学習に活用、発展する可能性を秘めた素材です。事例集では、このような入手し易い素材を多く紹介し、隊員の方々の活動のヒントとして活用いただこうと期待しています。今後、現職教員派遣前研修などで、現地の環境や対象となる生徒に合わせたハンズオン素材の選択、評価の方法や、具体的な活用の方法などを紹介させていただきます。

入手先

連絡先と同じ

作成年度

平成19年度中に完成予定

作　　者

鳴門教育大学教員教育国際協力センター(代表者:服部 勝憲)

連絡先

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748

TEL:088-687-6394 FAX: 088-687-6044

E-mail: hattorik@naruto-u.ac.jp

<http://incet.naruto-u.ac.jp/>

作者からのメッセージ

隊員の皆様等から多くのハンズオン素材が寄せられているところです。皆様のご協力で、入手しやすい簡単な材料で、しかも多様な使い方、活動につながり、発展するハンズオン素材を集約、提案していくたいと考えています。よろしくお願ひします。

7. 学校保険改善実践マニュアル



学校保健改善活動の推進・普及を図ることを目的に作成しました。学校保健改善プログラムを通して健康に対する意識改善を図ります。



分 野

学校保健教育

言 語

日本語、タイ語、ミャンマー語（ネパール語にも翻訳中）

要 旨

本書は、これから開発途上国に赴任される方を対象にしたもので、当地における学校保健の問題を実践的に解決することを目的としています。著者らは、品質管理(Quality Control)を健康分野に応用させたHQC(Health Quality Control)を提案し、それを用いて学校保健の重要な分野について実践的な改善方法を指導しています。

活 用 方 法

主に学校をフィールドとして活動する職種の方に活用していただくことを考えていますが、これ以外にも、保健衛生部門の職種やコミュニティで多様な活動を行う青少年活動、村落開発普及委員などの職種の方にも活用いただくことを期待しています。

活用事例

改善実践プログラムは、A～Fまであります。

- A. 学校保健改善チームの運営プログラム
- B. 保健室を設置して運営するプログラム
- C. HQCと生活習慣の改善指導プログラム
- D. HQCIによる学校保健環境の改善
- E. HQCIによる学校安全プログラムの作成、実施
- F. HQCIによる動植物育成プログラム

現地では、AとBを必ず行ってもらい、その他にC～Fからいくつかを選択し実践してもらっています。もちろん、国、地域、学校によって事情が違いますので、内容を工夫することが必要となります。

すべての実践プログラムの基本的な改善手法となるのが、HQCです。



入 手 先

連絡先と同じ

作 成 年 度

平成 19 年度

作 者

大妻女子大学(代表:大澤 清二)

連 絡 先

〒102-8357 東京都千代田区三番町 12 番地

TEL: 03-5275-6047 FAX: 03-3222-1920

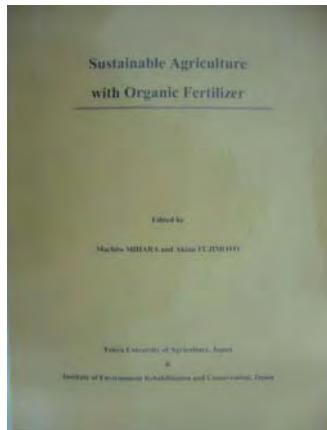
E-mail: base@otsuma.ac.jp

作者からのメッセージ

このマニュアルに従って活動していくば、あなたがこれから赴任する地域の学校は、清潔で快適な学校になるでしょう。もし、すぐに結果が出なくても、あきらめず、いろいろな工夫をして問題に取り組んでいって下さい。計画を立てて、責任者を決め、粘り強く、少しづつ活動していくことが重要です。

8. 持続的農業と有機肥料

- Sustainable Agriculture with Organic Fertilizer



食農環境教育支援システムの推進・普及を図ることを目的に作成しました。堆肥作りを通して環境に対する意識改善を図ります。



分 野

環境教育

言 語

日本語、英語、タイ語、クメール語

要 旨

食農環境教育用の教材「持続的農業と有機肥料」は9章で構成されており、土壤の基本的性質を「第1章 私達の生活を支えている土壤」「第2章 環境を守っている土壤」で扱った。特に、第2章では土壤の持つ環境保全機能について詳述した。「第3章 農地の土壤が抱えている環境問題」では、土壤侵食や土壤汚染等の土壤の劣化現象と周囲の環境に及ぼす影響について説明した。

また「第4章 持続的農業の重要性」では、持続的な農業生産力と環境の保全を目指した持続的農業の大切さを解説し、「第5章 農地の土壤を元気にする有機肥料」「第6章 有機肥料の利用」「第7章 堆肥の利用」「第8章 粒状堆肥の利用」では、持続的農業に向けた土づくりに大きく寄与する堆肥や粒状堆肥などの有機肥料について順を追って説明した。また最終章の「第9章 NGOと大学との連携による持続的農業の推進」では、持続的農業の推進に向けたNGOと大学との連携の意義について記述した。なお、本教材は英語のみならずタイ語、クメール語、日本語の4カ国語で記述されている。

活用方法

途上国では無分別な農薬の使用などの被害が深刻な問題となっており、様々なレベルで食農環境教育の取組が求められる中、環境教育隊員だけでなく、青少年活動、村落開発普及、小学校教諭等の他、保健衛生部門や農林水産部門の職種の方にも活用いただくことを期待しています。



活用事例

活動国カンボジアで行った食農環境教育セミナーでは、教材「持続的農業と有機肥料」の内容をもとに有機農業における堆肥の効果について詳細な解説を行い、小学校で実施する食農環境教育の意義について説明した。

併せて、各小学校に設置した堆肥槽を



用いて堆肥づくりに取り組む実習や有機菜園づくりといった実習を行い、教材で学んだ内容の体験学習を行った。さらに堆肥づくりに取り組んだ小学生による活動記録や感想文をセミナーにおいて

発表してもらうなどし、小学生の関心や積極的参加を促した。



入 手 先

東京農業大学国際協力センター 三原真智人

作 成 年 度

平成 19 年度

作 者

東京農業大学国際協力センター(三原 真智人・藤本 彰三)

連 絡 先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL: 03-5477-2338, 03-5477-2560 FAX: 03-5477-2635

E-mail: m-mihara@nodai.ac.jp, tuacip@nodai.ac.jp

<http://www.nodai.ac.jp/init/index.html>

作者からのメッセージ

今日、農業体系は複合栽培から単一栽培へと変化する傾向にあります。東南アジアでは農地に散布された様々な化学物質が、健康や環境に多くの問題を引き起こしています。持続的農業は農業生産と自然環境との調和のもと、食糧や纖維物を生産する農法です。近年、現地農家にとって化学肥料への多額の出費を削減できる有機肥料が注目されつつあります。

農村開発において各地域の環境許容量を評価し、環境許容量を超えない範囲内に開発活動を制限することが重要です。持続的農業のため、有機肥料の投入は肥沃度だけでなく、土壤の物理性、化学性および生物性を維持するのに意味があります。また水質汚染の緩和や人々の健康、食の安全性の向上にも寄与します。農地からの肥料成分の流出を防ぐために開発された粒状堆肥は、現地農家にとって持続的農業の確立につながると期待されています。

本ガイドブックが多くの人々にとって、有機肥料に关心を持つ機会となることを期待して筆を置きます。本書は、東京農業大学(日本)、環境修復保全機構(日本)、カセサート大学(タイ国)、王立農業大学(カンボジア国)、Asian Environmental and Rural Development(タイ国)における連携による「食農環境教育支援システム」の成果です。

Ⅱ 事業関連資料

“日本の「知」を活用した国際協力”

1. 「知」の活用

大学等の教員や研究関係者が有する我が国の知見を整理・蓄積し、援助機関やNGO等の国際協力関係者が現地で活動する際に役立つ活動モデルや参考教材を作成しています。

また、「青年海外協力隊」に参加している現職教員に対して、現地で使用可能な教材の作成・提供、派遣中の活動に対する教育上の助言、帰国後に行う国際理解教育活動への協力などの支援を行っています。

平成19年度実施課題

【青年海外協力隊派遣現職教員の支援】

お茶の水女子大学	幼児教育分野における派遣隊員支援と幼児教育協力の質的向上
筑波大学	筑波大学附属小学校を拠点とした派遣現職教員支援システムの構築
筑波大学	障害児教育分野における海外青年協力隊派遣現職教員サポート体制の構築
鳴門教育大学	派遣現職教員の活動の幅を広げるハンズオン素材とその活動展開モデルの開発
日本女子大学	家政分野における派遣現職教員の活動支援教材および指導法の開発
宮城教育大学	海外教育協力者に対する環境教育実践指導と教育マテリアルの支援



●作成されたハンドブックや教材

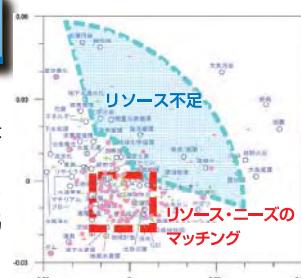


●作成された教材を使った授業風景

【教育研究に関する我が国の経験の活用】 13件

2. 「知」のマッチング

我が国の大学等が有する「知的リソース」と、途上国の大学等が日本に求める「協力ニーズ」を調査し、それらの分布状況を把握・分析することによって、より効果的な国際協力活動の実施を目指しています。



3. 「知」のネットワーク

学問的な専門分野別に大学教員や援助関係者などの専門家からなる「知的ネットワーク」を形成し、国際協力における各分野の動向の把握や大学等が行う国際協力活動に対するアドバイスなどを行います。

「青年海外協力隊派遣現職教員のサポート」 ホームページ

(<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>)

青年海外協力隊派遣現職教員のサポートに係る取組や、イベント情報等を掲載しています。

The screenshot shows the homepage of the 'Support for Japanese Teacher Working Overseas' website. At the top, there is a banner with text in Japanese and English: '青年海外協力隊募集 | 国際協力ニアジアディオ | 国際協力ニアジアディオライブラリ | CRICED | JOCV | 文部科学省 MEXT' and '青年海外協力隊派遣現職教員のサポート | Support for Japanese Teacher Working Overseas'. Below the banner is a navigation menu with links to 'TOP', '支援活動', '現職教員の活躍', '過年度', 'リンク', and '問い合わせ'. On the left side, there is a sidebar with links to 'Top page', 'イベント', '事業概要', '動画', and 'お知らせ'. The main content area contains text about the support activities of the Center for Research on International Cooperation in Educational Development (CRICED) and information about Japanese teachers working overseas. At the bottom, there is a copyright notice: '© 2007 Center for Research on International Cooperation in Educational Development (CRICED)'.

【主な掲載内容】

- ・各種イベント情報
- ・大学等による協力隊員の支援活動
- ・過去の派遣前研修、帰国隊員報告会の資料
- ・派遣中の現職教員の活動の様子

「国際協力イニシアティブ」ライブラリ

(<http://e-archives.criced.tsukuba.ac.jp/>)

国際協力に有用な資料(画像、映像を含む)を公開しています。

主な公開資料 【1467件/H19.11現在】

■国際協力に役立つ資料 (日本および各国・地域について)

- ・教育史に関する資料
- ・教育制度に関する資料
- ・学校経営に関する資料
- ・教員養成に関する資料
- ・教員研修プログラム
- ・教科教材
- ・指導案
- ・カリキュラム
- ・途上国での活動記録

■拠点システム構築事業の成果物

(平成15年度～18年度)

■教育協力拠点形成事業の成果物

(平成19年度～)

■青年海外協力隊事業に参加した教員が作成・使用した資料

- ・指導案
- ・教材
- ・現地報告書

トップページ

検索機能利用例

検索機能

■カテゴリー一覧

国・地域、教育段階、教科の内容領域ごとに検索が可能です。

■キーワード検索

興味のあるキーワードから検索が可能です。

■その他の検索

複数のキーワードから検索が可能です。

平成19年度
文部科学省「国際協力イニシアティブ」
教育協力拠点形成事業

—青年海外協力隊派遣現職教員の支援—

成果物のご案内

編集・発行 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室

